

発音の発達

横浜市中心部地域療育センター
言語聴覚士



発音の誤りには種類があります

- 口の構造に問題がある
(口の天井=口蓋に穴が開いている: 少ない)
 - 音の並びのあやまり
 - 音が未獲得
- } ことばの発達が大きく影響



1. 音の並びのあやまり

例) テレビ「テベリ」食べる「パエル」
エレベーター「エベレーター」
保育園「ホークエン」「ホーケン」

- ことばの力が4歳すぎると減少

※現在何歳かではなく、ことばの発達が何歳位なのかが重要です



対応：手遊び歌を歌いましょう

- 大人と一緒に歌うと楽しい。
- 歌詞はあいまいでもOK。
- 身ぶりがつくのでイメージしやすい。
- くり返しを楽しみましょう。
- “耳で聞いて、口から出す”ルートを育てる。



2. 音はだんだん言えるようになります

①どんな音でもいい時期

ことばの発達が2歳台：2語文を話す段階

パ行、バ行、マ行、ヤ行、ワ、ン、アイウエオ

ことばの発達が3歳台：3語文を話す段階

タ行、ダ行、ナ行、ガ行、チャ行

ことばの発達が4歳台：説明が増える段階

カ行、ハ行

※現在何歳かではなく、ことばの発達は何歳位なのかが重要です



2. 音はだんだん言えるようになります

②音が完成する時期

ことばの発達が5歳台：質問にくわしく説明できる段階

サ行、ザ行、ラ行

- 発音の練習は年長さんですることが多い。
- 着席して、大人の指示に応じられること。
- はなしことばの音に注意を向けて、改善に取り組むには5～6歳くらいの言語力が必要。



発音不明瞭への対応

- 大人はゆっくり話す、短く話す
- いいなおしをさせない。

×「ちがうよ」「～っていってごらん」

- 正しい音を聞かせるだけでよい。

○「おさかなだね～」

- 早めに相談を→鼻から牛乳やヨーグルトがもれる



おわり

